

Title	助産師による夫婦への出産支援サービス"Mama to Baby"のデザイン
Sub Title	Mama to Baby : a design of a maternity service by midwives for couples
Author	伊東, 春美(Ito, Harumi) 砂原, 秀樹(Sunahara, Hideki)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2012
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	<p>Mama to Baby とは、妊婦、夫、助産師の3者をICTネットワークでつなぎ、必要な情報共有ができるサービスである。夫婦は、本サービスを使うことによって相互作用が高まり、妊婦の満足いく出産が支援される。なぜ、本サービスが必要かという、満足いく出産はその後の育児にも好影響を及ぼすためである。仮に、適切な支援を受けられず不安や緊張の強い妊婦は、出産にも悪影響を及ぼす。夫も妻の様子に驚き、その結果夫婦で緊張し悪循環となる。このような場合、彼らを支援する助産師の負担も増す。</p> <p>そこで、本論文で提案するのが「Mama to Baby」である。妊婦は、夫と助産師へ、自分の体調や胎児の様子を、専用のiPadアプリケーションを使って伝えることができる。夫は、その情報を専用のiPhoneアプリケーションで閲覧し、妻の妊娠の様子や胎児に対する知識を習得できる。助産師は、専用のiPadアプリケーションを使って、妊婦健診時にマイナートラブルと出産準備の様子を、妊婦に対面する前に簡単に情報収集ができる。その結果、妊婦は夫と助産師から必要な支援を受け取ることができる。</p> <p>主な情報入力には妊婦が行う。文字、写真、動画による情報入力が高められ、それらはクラウドネットワーク上のデータベースに蓄えられると推定した。一方、情報の出力は、閲覧する対象者に合わせて選定され、異なる3種類の形態で提示することができる。これらのデザイン及び実装の結果、妊婦は夫から具体的な支援を受けられ、夫婦の相互作用が高まる様子が観察された。そして、助産師は簡単に情報収集ができ、それを保健指導へ活かすことでサービス向上が期待できた。</p> <p>Mama to Baby は、夫婦関係を高めながら出産準備ができるサービスで、それは助産師支援にもつながる。本論文では、どのような過程で本サービスがデザインされ、開発に至ったのかを記述する。</p>
Notes	修士学位論文. 2012年度メディアデザイン学 第221号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002012-0221

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2012年度（平成24年度）

助産師による夫婦への出産支援サービス
“ Mama to Baby ”のデザイン

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科

伊東 春美

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士(メディアデザイン学) 授与の要件として提出した修士論文である。

伊東 春美

審査委員：

砂原 秀樹 教授 (主査)

奥出 直人 教授 (副査)

大川 恵子 教授 (副査)

修士論文 2012年度（平成24年度）

助産師による夫婦への出産支援サービス “ Mama to Baby ”のデザイン

論文要旨

Mama to Baby とは、妊婦、夫、助産師の3者を ICT ネットワークでつなぎ、必要な情報共有ができるサービスである。夫婦は、本サービスを使うことによって相互作用が高まり、妊婦の満足いく出産が支援される。なぜ、本サービスが必要かという、満足いく出産はその後の育児にも好影響を及ぼすためである。仮に、適切な支援を受けられず不安や緊張の強い妊婦は、出産にも悪影響を及ぼす。夫も妻の様子に驚き、その結果夫婦で緊張し悪循環となる。このような場合、彼らを支援する助産師の負担も増す。

そこで、本論文で提案するのが「Mama to Baby」である。妊婦は、夫と助産師へ、自分の体調や胎児の様子を、専用の iPad アプリケーションを使って伝えることができる。夫は、その情報を専用の iPhone アプリケーションで閲覧し、妻の妊娠の様子や胎児に対する知識を習得できる。助産師は、専用の iPad アプリケーションを使って、妊婦健診時にマイナートラブルと出産準備の様子を、妊婦に直面する前に簡単に情報収集ができる。その結果、妊婦は夫と助産師から必要な支援を受け取ることができる。

主な情報入力には妊婦が行う。文字、写真、動画による情報入力がなされ、それらはクラウドネットワーク上のデータベースに蓄えられると推定した。一方、情報の出力は、閲覧する対象者に合わせて選定され、異なる3種類の形態で提示することができる。これらのデザイン及び実装の結果、妊婦は夫から具体的な支援を受けられ、夫婦の相互作用が高まる様子が観察された。そして、助産師は簡単に情報収集ができ、それを保健指導へ活かすことでサービス向上が期待できた。

Mama to Baby は、夫婦関係を高めながら出産準備ができるサービスで、それ

は助産師支援にもつながる。本論文では、どのような過程で本サービスがデザインされ、開発に至ったのかを記述する。

キーワード：

助産師外来, 出産準備, 夫婦の相互作用, 夫立ち会い出産, ネットワークサービス

慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科

伊東 春美

Abstract of Master's Thesis of Academic Year 2012

-Mama to Baby-

A Design of a Maternity Service by Midwives for Couples

Summary

Mama to Baby is a service which shares information using ICT to connect expectant mothers, husbands and midwives. As for the couple, this service assists them in raising interaction between each other, which helps expectant mothers have a positive birth experience.

Expectant mothers often suffer from fear and stress, which influences their birth experience. If their husbands can't emotionally support them, then the majority of their support comes from the midwives, who are already working at full capacity. Therefore, in order to offer more support to expectant mothers, I propose this service called " Mama to Baby ".

Using the iPad application, the expectant mothers can share the state of their condition and as well as the the fetus' condition to their husband and midwife. Using the iPhone application, the husband can read the updates and can get more information. The midwife can easily get patient information through the iPad application and stay informed about minor troubles and preparation for birth. As a result, the expectant mothers can receive the necessary support from their husbands and midwives.

The majority of the information is entered by the expectant mothers. This includes upon the start of this service, journal entries, photos, and movies. The information will be saved in the database on the cloud network. Based on what is entered by the expectant mothers, all 3 types of users receive personalized updates pertaining to most recent information.

As a result of the design and implementation, the expectant mothers receive concrete support from their husbands, and they have a good interaction with them. Also, because the midwives can get patient information easily and are able to anticipate difficulties, their services will improve.

Mama to Baby is a service that helps couples to prepare for parenthood, as well as grow as a couple. Hopefully this explanation provides a clear idea of the structure of this service, and the idea that led to its creation.

Keywords:

Midwife Maternity Care, Preparation for a Birth, Interaction for a Couple, Husband in the Delivery Room, Network Service

Graduate School of Media Design, Keio University

Harumi Ito